

メキシコ・シティ周縁地域における公共空間の改善プロジェクトに関する研究 — 地区改良コミュニティプログラム(PCMB)を対象として —

A STUDY OF OPEN SPACE IMPROVEMENT PROJECT IN MARGINALIZED AREAS OF MEXICO CITY
— Focusing on the Community Neighborhood Improvement Program (PCMB) —

時空間デザインプログラム
08M43310 氏名 吉田祐記 指導教員 氏名 土肥真人
Environmental Design Program
Yuki Yoshida Adviser Masato Dohi

ABSTRACT

This study focuses on Programa Comunitario de Mejoramiento Barrial (PCMB), a community-based program that runs a comprehensive set of cultural, health, environmental, educational and employment projects within a low-income neighborhood in Mexico City. Researches were conducted with 4 cases which are adopted by PCMB in 2007, regarding relationship between the grass-roots movements prior to the adoption and the PCMB process in each case. In conclusion, 1) the PCMB program contributes to improving public space and infrastructure, meeting local needs flexibly; 2) the PCMB program works more effectively with prior grass-roots movement.

第1章 背景と目的

1-1 研究の背景と目的

ラテンアメリカ各国主要都市では、非合法居住区の拡大への対応が希求されている¹。メキシコ市においても、1970年代以降、都心部のスラムや都市郊外の非合法居住区における民衆組織の運動により、都市貧困層の住環境改善が進み、その活動領域も拡大してきた²。一方、90年代以降、社会・経済的貧困の程度を示す周縁性指標 grado de marginación(以下、GM)に基づき、政府機関によって様々な社会開発プログラムが施行されている。これら民衆組織の実践と制度的取組みの結合から、2007年、メキシコ市は住民主体による公共空間の整備・改善を目指す「地区改良コミュニティプログラム」Programa Comunitario de Mejoramiento Barrial(以下、PCMB)を施行し、今日までPCMBプロジェクトは拡大すると共に、住民主体のプロジェクトであることから、国内外から大きな注目を集めている。

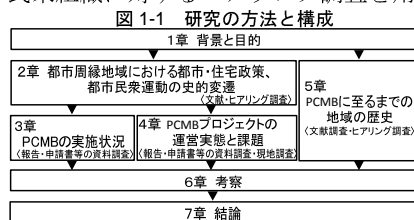
本研究では、①メキシコ市周縁地域における、PCMBのプロジェクトの運営実態と課題を明らかにし、②地域の歴史、とりわけ非合法居住区における、住民自治の思想やその背景を、自助建設による基礎インフラ整備の歴史と共に表出させ、現在の公共空間の改善プロジェクトとの関係を考察することを目的とする。

1-2 本研究の方法と構成

本論文の構成を(図1-1)に示す。研究の方法は、主に文献調査、政府機関・NGO・民衆組織に対するヒアリング調査を用いる。なお本論で用いる諸機関等の略称を(表1-1)に示す。

1-3 既往研究との関係

PCMBに関する論



文には、社会開発省(以下、SDS)による報告書や専門家NGOのプロジェクト実施過程・実態報告及び住民参加の手法を示したものの³、大学等の学術機関によるケーススタディを踏まえたPCMB制度の評価あるいはプロジェクトの評価指標を提示するもの⁴等がある。本論文は、地区の歴史(特に不法占拠時の歴史)を把握し、さらに住民の主観的・認識的な歴史を併せて、現在の公共空間改善プロジェクトに与える影響を考察するという点が特色である。

第2章 都市周縁地域における都市・住宅政策、都市民衆運動の史的変遷

2-1 メキシコ市の地域区分と周縁性指標(GM)

メキシコ市では、16のデレガシオン Delegación という行政区画があり、各デレガシオン区にはウニダー・テリトリアル Unidad Territorial(以下、UT)という行政管理単位区がある。またUTとは別にコロニア colonia、プエブロ pueblo、バリオ barrio 等と呼ばれる地区が併存している。90年代以降、国勢調査のデータからUT単位でGMの評価がなされ、UTごとに様々な

正式名称	略称	日本語名称
政府機関		
Gobierno del Distrito Federal	GDF	連邦地区行政(メキシコ・シティ)
Secretaría de Desarrollo Social del Gobierno Distrito	SDS	社会開発省(GDF)
Desarrollo Integral de la Familia	DIF	家族総合開発局
技術支援機関		
Centro Operacional de Vivienda y Poblamiento	COPEVI	住宅・定住事業センター
Taller 5 del Autogobierno	Autogobierno	アウトゴビエルノ
Casa y Ciudad	CyC	カサ・イ・シウダー
Centro de la Vivienda y Estudios Urbanos	CENVI	住宅・都市研究センター
Frente Solidario a la Vivienda	FOSOV	住宅のための連帯推進機構
Universidad Autónoma Metropolitana	UAM	メトロポリタン大学
Universidad Nacional Autónoma de México	UNAM	メキシコ国立自治大学
Alternativa Comunitaria	-	アルテルナティブ・コムニタリア
Colectivo Social para el Mejoramiento Barrial Integral	Colectivo	コレクティブ
政策		
Programa Comunitario de Mejoramiento Barrial	PCMB	地区改良コミュニティプログラム
Programa de Mejoramiento Vivienda	PMV	住宅改良プログラム
Programa Integral de Mejoramiento del Barrio	PIMB	地区改良統合プログラム
民衆組織		
Unión Popular Revolucionaria Emiliano Zapata	UPREZ	エミリアーノ・サバタ革命民衆連合
Unión de Colonos de Pedregal de Santo Domingo	UCSD	サントドミンゴ入植者連合
Culí-VAMOS-Juntos	-	クルティバモス・フントス
Centro Educativo Cultural y de Servicios	CESyS	文化・サービス教育センター
Coordinadora Comunitaria de Miravalle	COCOMI	ミラバジェ・コミュニティ調整委員会
Coordinadora Nacional del Movimiento Urbano Popular	CONAMUP	全国都市民衆運動連合

表 1-1 本論で用いる略称一覧

社会開発プログラムが実施されている。

2-2 住宅改良プログラムとコレクティブボの活動

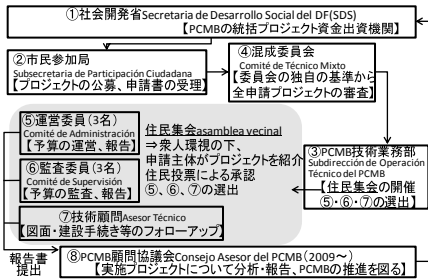
1998年に、老朽化した住宅を少額融資により改修する住宅改良プログラム Programa de Mejoramiento de Vivienda (以下、PMV) が創設された。PMVの特徴には1) 融資世帯・返済管理を地区単位で構成される近隣住民委員会 asamblea vecinal が担う点、2) 専門家 NGO や大学の建築学科等の建築家との協働による包括的コミュニティ支援を行う点等が挙げられる⁵。また2005年から、専門家 NGO や民衆組織が中心となってコレクティブボ Colectivo を結成し、地区改良統合プログラム Programa Integral de Mejoramiento del Barrio(以下、PIMB)が考案され、31の専門家 NGO・民衆組織の連名で、当時のメキシコ市長候補マルセルロ・エブラルド Marcelo Ebrard に提出された。PIMB 創設を公約の1つに掲げたエブラルドは、2006年12月にメキシコ市長に就任、2007年6月12日、PCMB が施行された。

第3章 PCMB の実施状況

3-1 PCMB の概要

PCMB は、主に周縁性指標が中位以上を示す地域の公共空間を対象として、個々の地域課題の設定、計画策定、実施、評価への住民参加を通じた地区改善を行う制度である。2007年の予算総額は8,000万ペソ(1ペソ≒10.7円；2007年平均為替レート)で、1件あたり100万から500万ペソの予算を申請でき、最大3年までの継続申請ができる。PCMB の実施体制は(図3-1)で表すように、④混成委員会の審査や住民投票によるプロジェクトの承認により、プロジェクトの公平性・公益性を保証している。

図3-1 PCMB 実施体制



3-2 申請書の様式

PCMB の申請書は、15項目から構成され、社会開発省から入手可能な40件の申請書から把握できる各項目の平均頁数を表したのが、(表3-1)である。小項目の設定や文量は自由で、必要に応じて別紙資料を添付できる。「C. 対象地域の診断」項目に比較的多く頁数が割かれていることが分かる。

3-3 2007年申請・採択プロジェクトの概要

2007年のPCMBプロジェクト申請数は139件、内採択数は48件である⁶。これを地理的にみると(図3-1)、GM「最高位」「高位」の割合が他区と比べても少ない都心部のデレガシオン(3.6.15.3)区は申請・採択件数共に少ない。申請件数が多いデレガシオン(4.9.14)の3区は、PMV 施行初期の重点地区であり、数多くPMVの経験を有していることと相関があると言える。中でもイスタパラパ区、コアアカン区は、1970年代に非合法居住区の土地所有合法化運動が発祥した地であり、採択率が高い。また、実施プロジェクト45件⁷について、本論では事業内容別に5つに分類した⁸(表3-3)。また、PCMB以前の活動前史の有無について表したものが(表3-4)である⁹。PCMB以前の活動前史をもたない地区は26件と過半数を占め、一方でPIMBに携わった10の民衆組織の内、3の組織がPCMB実施に至った。

表3-1 採択プロジェクト申請書の項目別頁数

No.	申請項目	平均頁数	No.	申請項目	平均頁数	No.	申請項目	平均頁数
A	基礎情報	1.0	F	計画の実現性	2.1	K	スケジュール	2.5
B	計画対象の領域	0.8	G	建築計画	3.9	L	計画実現のための目標	1.2
C	対象地域の診断	4.7	H	計画・参加のプロセス	1.8	M	計画に対する評価と管理の指標	1.6
D	計画目的	2.8	I	計画実施のための事業	1.9	N	計画後の評価指標	1.3
E	計画の特徴	3.4	J	予算	4.5	O	目次	1.6
計(添付書類除く)		35.2	計(添付書類含む)		53.5	P	添付書類	18.3

第4章 PCMB プロジェクトの運営実態と課題

4-1 本章の目的

本章では2007年のPCMB実施プロジェクト45件の内、4地区のプロジェクトを選出、地域の自己診断、計画作成プロセス・実施内容・評価等について詳細に把握し、PCMBプロジェクトの運営実態と課題を明らかにすることを目的とする。

4-2 対象地の抽出と調査概要

対象地の選定にあたり、1) 入手した40件の申請書及びSDS(PCMB担当者 Alberto)、専門家 NGO(UPREZの Jaime Rello)、UNAM建築学科(Lourdes教授)へのヒアリングから、地域課題の設定と提案内容の整合性、その達成度を判断基準として13件の候補地を選定、2) 13地区を対象に現地調査および関係者へのヒアリングを行い、景観改修を除く各事業タイプより1地区ずつ、計4地区を抽出した。調査概要と抽出した対象地の概要を(表4-2)に示す。また、不定期に開催されるコレクティブボの会合にも参加し関連する情報収集をした他、社会開発省に提出された報告書を入手し情報を補足している。以下、4つの対象地区【①ペドレガル・デ・サントドミンゴ(以下、SD地区)】【②パンティトゥラン】【③ミラバジェ】【④ガブリエル・エルナンデス他2地区】の内、ここでは、【③ミラバジェ】地区を事例として挙げる。尚、5章ではこの内、【①SD地区】について取り上げる。

4-3 ミラバジェ地区(イスタパラパ区)

①地区概況：イスタパラパ区の南東端に位置するミラバジェ地区は、メキシコ盆地の縁にあたり、眼下にはメキシコ・シティの市街地が広がる。同地区は、1980年より不法入植が始まり、入植者自身の自助建設、普請により住宅やインフラ整備が行われてきたが、水道、電気などの基礎インフラおよび教育/医療施設、住宅などの欠如により、地区の98%が周縁性指標で最高位を示している。

②PCMB前史：PCMB申請主体のCulti-VAMOS-Juntosは2005年に Rogelio を中心に結成され、仮設の建物や歩道、広場等で地区内の老若男女を対象に、文化活動を推進してきた。Culti-VAMOS-Juntos でギター講師をしていたUAMの学生 Oscar Pérez と地区内に点在する組織や活動を横断的に繋ぐ組織の設立を模索していたところ、2007年にPCMBの公募を新聞で知り、「渡りに船」と応募に至った。

③PCMBの申請内容：地区の問題を把握するため、独自の調査を行い、地域内の活動組織や施設等の資源把握と、教育、

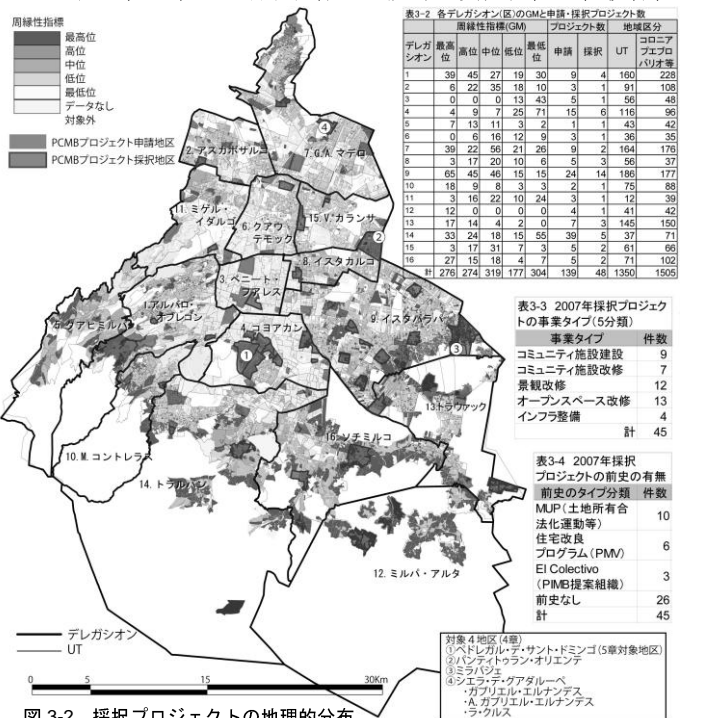


図3-2 採択プロジェクトの地理的分布

表 4-1 調査概要と対象4地区の概要

調査方法	ヒアリング調査 (2~9h)	調査項目
被験者	PCMBの運営・管理委員、関係者等	■地区概況(地理的特性、歴史、地区の問題等) ■PCMB以前の取組み(地域で活動している組織の歴史や関係性等)
調査時期	一次調査2010.04-05 二次調査2011.07-09	■PCMBの申請内容(対象地域の診断、計画策定、建設への参加の程度等) ■PCMB以降の展開(成果と課題)
プロジェクト名	コロニア ① Barrio Vivo, Barrio Nuevo ② Plan de Mejoramiento Barrial Pantitlán, Oriente ③ Programa Comunitario de Mejoramiento Barrial Miravalle ④ Plan Sierra de Guadalupe, G.A.M.	コロニア ① デレガシオン ② コヨアカン ③ イスタカコ ④ イスタバラバ ⑤ G.A.マデロ
申請主体	Benjamin Beceras Padilla [UNAM] [COPEVI] Abel Joaquín Roque Miñon [UNAM] Rosa Margarita Gonzalez Torres [Alternativa Comunitaria]	技術顧問 MUP Cole MUP MUP
前史	コミュニティセンター改修 オープンスペース改修 コミュニティセンター建設 インフラ整備	事業タイプ

医療、文化、レクリエーション施設の社会サービスの不備を指摘している。

④PCMBの実施状況：PCMBプロジェクトの実施概要は(図4-1)に示す。以前は、地区内に点在していた民衆組織(図4-1-【計画実施のコア主体】)が Culti-VAMOS-Juntos と共に、プロジェクトを牽引した。また、Colectivo Peatonal というグラフィティ・アートを行うグループの協力の下、地元の若者による壁画作成、公共花壇には、環境団体 Granjas Comunitarias が菓草を植える等、公共空間のメンテナンス(図4-1-②)を通じて、地区外の活動団体とのつながりも生まれてきた。

⑤PCMB後の展開：2010年からは、行政の有するソフト事業を駆使しながら施設の運営を充実させている。また10余りの地域団体が参加するミラバジェ・コミュニティ委員会が月に1回開催され、地区の問題解決を図っている。情報の偏在や意識の乖離によりこれら活動が一過性のものにならぬよう、コミュニティ委員会の目的や原理、活動実績、今後の計画等を明文化した活動原則を作成、問題意識の共有に努めている。

4-4 4章のまとめ
4地区の調査の下、(表4-2)に挙げるような指針を示すことができる。この指針の下、あらゆる制度的・社会的諸資源を活用するため、地区のアイデンティティを確立し、次世代へ独自の地域自治・文化を継承することが必要である。

しかし、市政府の実施するPCMBでは、短期的な資金投入がなされるため、継続的な活動・プロジェクトの実施に困難



図 4-1 ミラバジェのPCMBプロジェクト概要

表 4-2 4地区から得られた指針

	①ペドレガル・デ・サントドミンゴ	②パンティウラン・オリエンテ	③ミラバジェ	④シエラ・デ・グアラルーベ
制度的資源の活用	・コミュニティ食堂プログラム(DIF) ・診療所(保健衛生省)	・コミュニティ食堂プログラム(SDS)	・コミュニティ食堂プログラム(SDS)	・壁画 ・演劇ワークショップ(SDS)
社会的資源の開拓	—	・Escuela Ciudadana	ミラバジェ・コミュニティ委員会	・地域プロモーターの養成 ・地元のアーティストによる壁画制作
地域アイデンティティの醸成	・Escuelita内での掲示	—	・壁画の作成	・壁画の作成
手法の明文化・継承	—	・Informe Ciudadano	・活動原則 documento base de principios	・Cedula

が生じる。また、公共空間プロジェクトであるため、これまで地域に内在していた組織あるいは住民間の対立構造を浮き彫りにし、プロジェクトのみならず、地域内の社会関係をも悪化させる場合がある等の課題も明らかとなった。

第5章 PCMBに至るまでの地域の歴史(①SD地区)

5-1 本章の目的と対象地について

第4章での対象地区でもあるSD地区は、1971年に大規模な不法入植が行われた地区として知られている。本章では、主に1971年の不法占拠時に関する長大な歴史資料を有するSD地区の住民組織や政府機関、NGO、大学等の関係構築や、住民の自立的な空間改変の歴史を詳細に把握する。その上で、当時の入植者が記した手記や絵画等をそのままに編纂した資料を通じて、制度あるいは運動の中で、埋没あるいは喪失してしまうような、人々の意志や思想、その背景等を表出させ、それらが現在のSD地区における公共空間改善プロジェクトに与えている影響について考察することを目的とする。

5-2 分析の方法

本章では(表5-1)に示す【資料1】と【資料2】を用いる。5-3節にて【資料1】を基にSD地区の歴史を把握し、年表を作成する。また5-4節にて【資料2】に掲載されている、20名の手記や25枚の絵から、描き出される主題の全体的な傾向や、個人の属性、史料の性質に起因する個別的な傾向を分析し、SD地区の主観的・認識的歴史をまとめる。作成された【資料1】の年表、【資料2】の入植者の認識史をすり合わせ、地図を用いながらSD地区の歴史を再構+区分し、各期における民衆組織(主にUCSD)の活動、政府機関との対抗や連帯、専門家NGOや他の地区の民衆組織との連携を把握した。4期に渡る各期の特徴を(表5-2)に示す。

5-4 【資料2】の分析について

【資料2】掲載の20名の手記について、(表5-1)のように各文章を段落ごとに分け、さらに意味内容によって文章を145の意味単位ごとの分節(以下、意味単位)に分解した。全体の傾向：抽出した全ての意味単位を、内容別に分類しラベリングを行い、出来事の順序に従って並べた結果、20名の記述は1971~1973年の不法占拠時の様子や、当時の困難や問題、家屋や世帯を繋ぐための小道 varedas の敷設、またそれらを共同で整備するための近隣住民の組織化についての描写が多くみられた。1980年代前後には、地区内の街路・上水道・電気・交通といった基礎的なインフラが整う時期であり、1982年になると、コヨアカン区行政からの支援を受け、街路の舗装や電気メーターの設置等、フォーマルな公共サービスが導入された。1980年代以降は、地域文化についての記述が主だったものとなる。

出来事別の記述内容分析：ラベリングを行った意味単位は、大きく3つのテーマ(図5-1、①~③)に分類できた。さらに、

【資料2】に掲載されている25枚の絵についても作者別に上表5-1 5章で分析する資料概要

資料	タイトル	著者	出版年	出版	特徴
【資料1】	Las mil y una historia de Santo Domingo	フェルナンド・ディアス、フリオ・エルナンデス、ジョナサン・S・ディアス	2002	エスクエリタ	著者フェルナンドが10年以上にも渡り収集した、当時の入植者らへのインタビュー、写真、新聞記事、公文書、詩、散文詩等を基に編纂したSD地区歴史資料。UCSDの活動を中心にSD地区の歴史を詳細に示したもの。なお、本書掲載の史料は、エスクエリタ内に展示されている。
	協力(公的機関)	協力(民衆セクター)	頁数	監修	
【資料2】	国連人間居住センター、連邦政府文化局、コヨアカン区行政、文化・芸術全国協議会	SD地区の住民(96人、その他80人、12の民衆組織と専門家NGO)	368	インディアナ総合文化局	
	タイトル	著者	出版年	出版	特徴
【資料2】	Las mil y una historia del Pedregal de Santo Domingo II	フリオ・エルナンデス	2009	La Calavera (UCSD)	不法占拠時あるいはその後書かれた手記や絵等を全権フリーでそのまま掲載し、一人一人の人生・生活について各人が使用する言葉(単語の綴りや文法等の間違いがあったとしても)を、そのまま再録することで、当時の生き生きとした生活を描くことを試みている。
	協力(公的機関)	協力(民衆セクター)	頁数	監修	
【資料2】	文化・芸術全国協議会、全国文化芸術基金	当時の入植者20人の手記、主(3名)によって描かれている25枚の絵	122	フリオ・エルナンデス	

表 5-2 SD 地区各期の特徴

年代	時代区分	特徴
~1971	I 期	・シトレ火山の火山岩で覆われた土地は、その地質特有の地質と植生により、鉱物の探掘やサボテンをはじめとする農業が行われていた。 ・1950年にコアカン区南西部に大学都市(Ciudad Universidad・CU)が建設されると、SD地区不法占拠以前 ・SD地区は1971年の不法占拠以前までは、一部のロスレジェス住民が農場として土地を所有していた。 ・1971年9月1日のエチベリア大統領の政令により、9/1~3/31期間で約10万人が入植し、およそ11,000区画(2,601km ²)を占拠した。 ・不法占拠が始まると同時に、SD地区の土地所有権、パトロン-クライアント関係を構築しようとする政治的動機込み等、入植者かつての土地所有者であるロスレジェス住民あるいは軍隊、政府、政党との対立構造が浮き彫りになった。 ・1971年の不法占拠以後、入植者らの自立的かつ組織的な住居・都市インフラの整備活動を通じて、地域独自の基礎公共サービスの提供に至り、またUCSDというSD地区住民全体を包括する組織の構築に至った。
1971~1985	II 期	・UCSDの活動が全国的に周知されると、住民組織や専門、NGOによってSD地区の取組みは現行制度(PMV, PCMB)の構想基盤となった。 ・現在では、政府・国際機関による各種制度を利用し、UCSDを中心に地域改善活動が継続している。
1985~1995	III 期	・UCSDは地区内の社会・文化的な活動を推進(Barrio Vivo Barrio Nuevo)し、その活動は他の地域にまで及んだ(農畜産業生産センター-La Granja, ミニコ誌La Calavera, エスクエリータEscuelitaの建設等)
1995~	IV 期	・UCSDの活動が全国的に周知されると、住民組織や専門、NGOによってSD地区の取組みは現行制度(PMV, PCMB)の構想基盤となった。 ・現在では、政府・国際機関による各種制度を利用し、UCSDを中心に地域改善活動が継続している。

記テーマで分類し、文章中の出来事と絵で語られる内容を繋ぎ合せた(図 5-1)。

これを見ると、②生活資源の獲得と基礎インフラ整備のテーマ領域を中心として、①SD 地区の環境、③SD 地区の社会関係の2テーマの領域が重なっていることが分かる。当時の入植者らが、生活資源の獲得と基礎インフラの整備を行う際、常にSD地区の過酷な環境と向きあうために、住民間に社会関係を築いていった様子が読み取れる。また、そのような社会関係ができる場所は、【D1-2】や【D1-4】、【D2-2】のグループの絵で示される街路や共同貯水池、あるいは手記に著されるエスクエリータ¹⁰である。また、時系列で把握すると、不法占拠初期のSD地区の自然環境の中で、水資源を獲得し、各世帯の関係を築いていった時期から、小道 varedas ができた後の共同作業による街路整備へと時期が移行すると、それまで敵対していたSD地区を巡る社会関係や自然環境が変化し、入植者ら独自の社会関係の構築に至っていることが分かる。しかし、この一方で、地区内に生息する植物相や動物相との関係は薄れ、自然環境とは切り離された地区となった。

第6章 総合考察

【資料1】で把握されたSD地区の歴史では、UCSDの活動やその展開、政府機関との対抗や連帯を把握した。一方、【資料2】から構築される入植者たちの認識史では、基礎的な生活資源の欠乏に起因する、自発的かつ主体的な共同作業によるインフラ整備の過程や、その中で構築される入植者間独自の社会関係・共同の

手法や思想が明らかとなった。また、それらが表出する場所は、街路や共同貯水池、エスクエリータ等の場所である。2007年に実施したPCMBプロジェクトはエスクエリータやその周辺の劇場・芸術工房といったコミュニティ施設改修であり、上述した認識史から表出してくる場所とプロジェクト対象地が重なることが分かる。(図 6-1) PCMBプロジェクトは、公募による住民発意のプロジェクトであり、また、その実施は地区独自の手法に委ねられることから、PCMBは入植者らの認識史に接続し得る制度であると言える。この制度的特徴から、PCMBはラテンアメリカ全体で評価を集め、インフォーマルな不法居住地区の社会・空間を包摂することを可能にする施策と考えられる。

第7章 結論

- ・2007年のPCMB実施状況を把握し、またプロジェクトの実態を明らかにすることで、PCMBプロジェクトの今後の指針(表 4-2)と課題を示した。
- ・地域の歴史が現在のPCMBプロジェクト実施に際し、その手法と場所について影響を与えていることを示した。

<参考文献・脚注>

- ¹ラテンアメリカ経済委員会(CEPAL)によると、1970年、ラテンアメリカの都市貧困層の居住者数は、4,420万人であったが、1997年にはその約3倍の1億2,580万人に拡大し、各国主要都市における非合法居住者の割合も増加しており、土地所有の合法化とともに住環境の改善の取組みがラテンアメリカ全体で求められている。
- ²天野 裕(2009)「メキシコ・シティの都市空間編成と居住運動に関する研究」東京工業大学学位論文
- ³Casa y Ciudad, A.C.(2008.10)「Para construir el derecho a la ciudad:Experiencia del mejoramiento barrial en México」 Casa y Ciudad, A.C.
- ⁴Martín Najera Rodríguez(2009.7)「Participación Ciudadana y Mejoramiento Barrial. Los planes comunitarios de mejoramiento barrial en la Ciudad de México」Universidad Autónoma Metropolitana Azcapotzalco
- ⁵Bazzaco, Edoardo・Sepúlveda Manterola, Sebastián(2010)「Barrio Trabajando - Metodología de evaluación de la participación ciudadana en proyectos de mejoramiento barrial-」Agencia Española de Cooperación Internacional para el Desarrollo
- ⁶2007年までにPMVにより128,000戸の住宅改修が行われている
- ⁷当初、デレガシオン数に合わせ、最低採択件数を16件に設定していたが、想定を大幅に超える139件の申請があり、48件のプロジェクトが採択された。Georgina Sandoval(CyC)は、「わずか1ヶ月半の公募期間でこれほどのプロジェクトが申請されたのは、平時の活動蓄積の賜物であると述べている。
- ⁸プロジェクト対象地の土地権利関係の不手際等、3件は実施に至っていない。
- ⁹SDS報告書では、「講堂建設」を加えた6タイプに分類していた。該当件数が2件のみであること、またこの2件がそれぞれコミュニティ・センター建設やオープンスペース改修を行っており、「講堂建設」という分類は適当ではないと判断した。
- ¹⁰PREZのJaime Rello, COPEVIのSchulteへのヒアリングより。
- ¹¹SD地区初の地域の学校。当初はフルナンドと住民の有志により、青空学級で地区内の子どもたちに初等教育を施してきた。

PCMB 申請書中の地区独自の自己診断

区分	領域	自己診断の段階的な手続
1	街区 Cuadra	・専業主婦や子どもの収集 ・各世帯で同僚等が授業 区画委員を人選出
2	セクション(Sección)	区画委員会の開催、セクション単位で事業を決議、建築内容構築
3	全体 Barrio total	セクションの委員による地区委員会と住民集会の開催

PCMB 実施内容

- プロジェクト名【Barrio Vivo, Barrio Nuevo】
- 実施主体：UCSD■受益者数 34,893人
- 実施内容：
 - 2007：エスクエリータの改修、劇場の改装
 - 2009：景観改修(了解を得た6色から選択して各世帯で塗装)
- 予算 1,000,000 ペソ



2007年PCMBプロジェクト実施対象地域

図 6-1 総合考察図

図 5-1 5章分析図